

おにしさん



本願寺 函館別院

函館市東川町12番12号 ☎(0138)23-0647 FAX(0138)23-2630



新年のごあいさつ



輪番
樟原 宏朗

新しい年の初めのおたよりで、このような内容でどうかなあ、という思案をかさねて寄稿しました。その先生は、デンワでおつしやいました。シンゾウのはたらきを回復できない状態である。とりかえることもできない。そのときの判断をすれば、もうすでに二年間、もうけものをしているというべきであろうということでした。

なんとか都合よくいかないものかなと、つくつたり、こわしたりをくりかえしています。私たちは周辺の地球、宇宙、そして己のことが、気になつてしまつたがいいとか、そんなこと気になつてしまつたがない——ということもあります。どうも年末年始は、こうして過ぎてゆくようです。

(遺稿)

輪番、樟原宏朗殿には、入院治療中のところ、十二月二十一日往生の素懐を述べられました。
在任中のご厚情をお礼申し上げます。

副輪番として



副輪番
末澤 静覚

昭和五十年代初期金山副輪番以来、正規の副輪番がおりませんでしたが、ご門徒の皆様、総代役員の方々、函館近郊の御寺院の方々、函館仏教会の方々の、推薦とご指導のもと、この十一月一日付で正式に副輪番の補佐役となり当別院輪番の補佐役として、職員の統括として、永い歴史につちかわれた西別院の護法を受継ぎ、み仏の教えがご門徒の皆様一人一人の心の糧となり実となるよう、さらには函館の各界各層の方々との交流の中に

佛法の正しさ、生活の規範として信心が伝わりますよう協力をし、身を粉にして職員と共に歩んでゆく所存でございます。

ご門徒の皆様方のご支援とみ

法のもとに集まる寺院づくりに励み、この重大な責務をまい進いたしたいと存じます。

御正忌報恩講



ご開山様は、弘長二年(一九四〇)十一月二十八日、九十九歳の生涯を京都でとじられました。そしてご開山様の遺徳を偲んで毎月の二十八日に、門徒達によつてお念佛の集いが営まれるようになり、これがさらに大きくなり、本願寺第三世の覚如上人により報恩講の基本となる形が明らかにされました。

報恩講さん。本当に親しみのある言葉です。そしてこの言葉は念佛者としての尊い生き方の伝統として伝えられました。お念佛を喜ぶ人は「おかげさま」「ありがたい」「もない」といった言葉がしみじみと口をついて出ると、ある方がおっしゃっています。

あらゆるもののお恵みにより生かれていることへの感謝の心のあらわれであり、本来どの様な恩恵にも浴する資格のない私がという深い反省につらぬかれているといえます。

どうぞお参り下さい。

日時 平成五年一月十四日(木)

午後一時半より本堂にて
一月十六日(土)終

謹啓新年

淨土真宗本願寺派

本願寺函館別院

末澤 静覺

(輪番代行)

副輪番

管理人	"	書記	"	承任	參勤	參勤	參勤
向	向	平	山	小	芝	利	黒
出	出	田	崎	原	田	千	田
サカ	一	夏	三	秀	龍	葉	正
カ工	磨	枝	和	徹	憲	照	淨
	代	代	代	義	也	映	仁
	和	和	和	敬	也	量	宣

總代	森川基	總代	勝木俊	總代	小原隆	別院役員一同
本間溫子	嗣彰	本川基	代松	代松	演之	
間津川	嗣彰	代松	代松	代松		
温	嗣彰	基	俊	隆		
子						



肝煎 參与
世話役

盛野加伊坪山野外塩善中金高田大漆上四吉村松田高小桑桑加梶小大大大上荒瀧沢河加村
路賀林田本又村谷利島子橋島植崎坂倉田瀬原島橋林森森藤原原出谷坂井花株村賀瀧
長邦康茂民力 一賢定安榮政己莊勘英太 よ武秀辰甚好美進正幸年昭正は孝房正繁 順
四郎英彦喜三歳肇也治次助郎夫男一助二郎久か雄男雄吉造代一件男子司戦の一松宗治実郎

○第2龍谷幼稚園	○龍谷幼稚園	○	○
副会長	副会長	副会長	副会長
吉長筑未	鈴海守末	九堀茨波竹田瀧高瀧坂小小熊木菊神上金春銀石今青渡谷	内田
村田森澤	木名屋澤	山川野松野代 木尾下森泉谷下池谷岸井日治塚村木辺田	
博理彰静	美八信静	文十英正敏光滋一清昭 新淑勝郁孝教 ウ孝キ敏善 次	
志広俊覺	香子重一覚	正次一一夫子二雄一二清一子夫雄市雄保メ一エ夫一威雄	

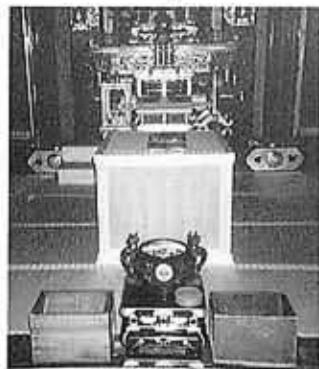
☆先真講	☆法友会	☆あそか会	☆ボーリスカウト	☆仏教に学ぶ	☆世話人	☆青年会	☆白蓮会	☆覺信尼会	☆仏教社年会	☆仏教婦人会
代表	代表	代表	代賀	田会	野齊本	中前鳴	木原本	渡野谷内田	白熊前本若	
山岸京子	淳利定次	本間ヨシ	加賀	代	呂藤間	西側海	村間	辺路	井谷側間原	
子	次	ヨシ	実	光	信孝敬	レさきせ	紀文温	邦次	松淑さく	
				予	詞憲将	イ	和子子	威英雄	子子ヨシ	

十六日会役員一同

布教用高座について

皆様おなじみの落語でござる。と高座で語りかけるあの高座、実は仏教における説教をする台を高座といい、もともと、落語も説教師から分かれて芸能になつたもので、仏の教えを、笑わせたり、泣かせたりの中に信心を持たすように説いたものです。特に浄土真宗の教えは、法を聞く聞法に始まって聞法に終る。

寺院布教も現代と申しますように、先人の方々は布教活動に力をそそがれて、寺での布教を高座に登つて語られたことです。寺院布教も現代では講演方式が多く、過去に使われた高座も失なわれて来ましたが、今回平成四年十月の報恩講に高座を造り、高座布教をしていただきました。高座から語りかけられる法話にひと味違つてられたことです。今後布教される講師の方によつて、どしどし高座布教を願いたいものです。



常例布教

一月・二月



● 布教使

一月	正光寺住職 上磯町七重浜
二月	高松周禰師 宣法寺副住職 渡邊斧龍師
十六日会	午後二時半

家庭法座開催のお知らせ(土曜法座)

■とき/1月30日(土)

午後1時半~3時半

・淨土三部経についてパートII

「観無量壽経について」

●ごあんない図●



■とき/2月27日(土)

午後1時半~3時半

・淨土三部経についてパートII

「阿弥陀經壽経について」

*他地域でも申し出がありましたら、実施いたします。

教化サークル

二月・二月



婦人会 担当 村澤、神田

一月二十三日(土) 新年会

二月二十三日(火) 新年会 例会

佛教壮年会

担当 村澤、小笠原

一月二十九日(火) 新年会

二月九日(火) 研修会

覚信尼会

担当 神田

一月十九日(火) 新年会

二月八日・十八日・二十八日 午後六時半 研修会

白蓮会 担当 利国

十二日 午後六時半

ボーリスカウト 担当 千葉、芝田

毎月プログラム発行

佛教に学ぶ会 担当 村澤、利国

八日・十八日・二十八日 午後六時半

佛教青年会(花の金曜会) 担当 芝田

一月二十九日(金)・三十日(土)

教区主催温泉説法参加 洞爺パークホテル・サンパレス

一月二十九日(金)・三十日(土)

毎月プログラム発行

ビハーラ 二月 後日連絡 担当 利国、神田

毎月プログラム発行

その都度連絡 担当 黒田

一日曜学校

一月十日(日)・十一日(日)

リーダー研修参加(札幌別院)

二月 研修会

- 1月1日(金)~10日(金)……末澤副幹番
- 1月11日(土)~20日(金)……千葉参勤
- 1月21日(木)~31日(金)……黒田参勤
- 2月1日(月)~10日(金)……神田承任
- 2月11日(木)~20日(金)……利国参勤
- 2月21日(金)~28日(金)……芝田承任
- 3月1日(月)~10日(金)……上戸承任



お西さんしあわせ電話
ちょっと耳をかたむけてみませんか
(0138)27局2424番

仏教の通信教育生募集

現在4名の御門徒の方が勉強されています。
仏教をもっと知りたいと思っている方、是非お越し下さい。

■応募資格

義務教育を終了した方なら誰でも応募できます(宗派を問いません)

■修学年数及び課程

修学年数は3ヵ年で、専修課程と学習課程とがあります

専修課程……本願寺派寺院の坊守・寺族、または所属寺の住職が承認した門徒の方で、僧侶の資格を得ることを目的とするコース

学習課程……本願寺派門信徒や一般の方で、学習を目的とするコース

■特典

専修課程の卒業者は、本願寺派の得度者査ならびに教師資格試験が免除されます(教師受与申請の資格は、卒業後5年内有効です。5年をすぎると効力を失います)

なお、両課程ともに卒業者には、卒業証書を授与いたします

■費用

1) 授業料: 専修課程43,000円 学習課程35,000円(いずれも1ヵ年)

2) その他: 教材・スクーリング費などが若干必要です

●場所 別院にて

●日時 毎月8日・28日 午後6時より

詳細については、月参りにお伺いする職員又は、別院にお問い合わせ下さい。

新職員紹介



上戸 秀朋

12月10日付をもちまして、当函館別院に着任いたしました。

出身は京都からまいりました。

これからもみなさんと共にお念佛の恵みを歓んでいき、またお育てにあづかっていきた

いと思います。

若輩ではございますが、ご指導、ご鞭撻お願い致します。

常和臺(台町出張所)特別懇志御芳名
ご懇志ありがとうございます。
(十月一日以降)

金大花竹吉野野野遠荒上上神桐松道前木佐金花真吉小今白金広室
垣谷内田山村路路路村藤井坂坂田谷永免側下藤谷田柄岡泉島井道部田
サキキ敏讓リコ邦照紗多は美美た正賢内貴フ真志豊 新ミ松マト文
くノ子ヨ治治工の美男司子の二子玄義一匠司ミ吉郎子隆一ヤ子サシ雄

澄小藤岩伊竹齊上石布田太河布米米中佐井黒坂
原崎間山藤坂井施村田村村谷谷山藤藤田口
信幸秀哲光ノヒ 真信圭幸澤千くに子清治
一男雄夫子ブサ奇一彦一郎治

松尾細山府黒小芝神千利黒末樟樟若林仏具製作所
榮笠本滝見崎野田原原田葉国田澤原原
寿市吉三美徹靜義龍憲照淨正靜教宏
美男和代也寛敬秀量映仁宣覺忠朗

平成四年十月一十二月
の間に亡くなられた方々
生前のご苦勞、お取り持ちを謝し、
心よりの哀悼を表します。

哀悼録

【永代経懇志上納者】



お餅つき誕生会



みんな ほとけの子



的場町にお住まいの宮本恵美子さんのお孫さんの麻衣ちゃん(3歳)は、半年前から浄土真宗の生活信条を覚え、おつとめの後一緒に称えています。とてもほほえましく、仏様も喜んでいらっしゃるのではないかと思います。



家庭法座 「土曜の会」

熊谷 淑子

「五濁悪世」と言われる比の世の中で、老病死の苦をかかえて生きなければならないこの私、「凡夫」が「凡夫」のままで救われるという、阿弥陀如来の御本願のありがたさ、



かたじけなさを信じてご聴聞させていただいております。おみのりを聴聞し味あわさせていただく場は「お寺」ですが「家庭」であっても出来るのではないか、日常生活を送る家庭で、気取らず、普段着のままでお聴聞が出来たらいいなと考えて、平成4年4月から家庭法座「土曜の会」を発足させました。狭い部屋で膝つき合せ、仏典物語のビデオを観賞し、その中に込められている仏様の教えを味あわさせていただいております。少しづつ参加する御同行もふえ、ありがとうございます。これも私のはからいでは御座いません。「弥陀の本願まことにおはしまさば、釈尊の説教虚言なるべからず、仏説まことにおはしまさば、善導の御釈虚言したまうべからず、善導の御釈まことならば法然の仰せ



そらごとならんや、法然の仰せまことならば親鸞が申すむね、またもってむなしかるべきからず候ふかくと歎異抄によって聖人のみ心があきらかにされておりますが、阿弥陀如来さまのお働きによって、皆様、私宅において下さると感謝いたしております。

平成5年もこの法座は継続し、まことの教えをさらに深く味わっていく所存でございます。合掌

今日はお餅つきの日。前の日から「先生、あしたはベッタンベッタンってお餅をつく日だね」と楽しみにしていた子ども達は、朝、幼稚園の玄関に入るとすぐに「うわあ、お餅の匂いがするー」と言い、わくわくした表情を見せていました。

子ども達はねじりはち巻きをし、はっぴを着ると朝よりも更にわくわくした表情を見せていました。子ども達のちっちゃな手での重たい杵を一生懸命持ち、「ベッタン、ベッタン」と言いながらお餅をつく姿は何とも言えないかわいらしさがありました。

お餅つきが終わってから、一人の男の子が私の頬をつまみ、「小島先生のほっぺってお餅みたい」と言ったのには思わず笑ってしまいましたが…。

子ども達は、自分の手でお餅をつき、自分の手でまるめたお餅を食べて、本当にあいかわらしきことでしょう。

